１．木製パネル貼りについて

写真用印画紙の主流がバライタ紙のころは、写真パネルといえばここで述べる水張りや、袋張りといわれる方法で作成したものを指したそうです。この方法の利点は、まず市販の木製パネルの単価が、サイズにもよりますが数百円程度と比較的安価なこと。そして、貼った写真を剥がせば、木製パネルを再利用できることです。各校で必要数をあらかじめ備品として購入しておけば、翌年以後は木製パネルを買い直す必要はありません。

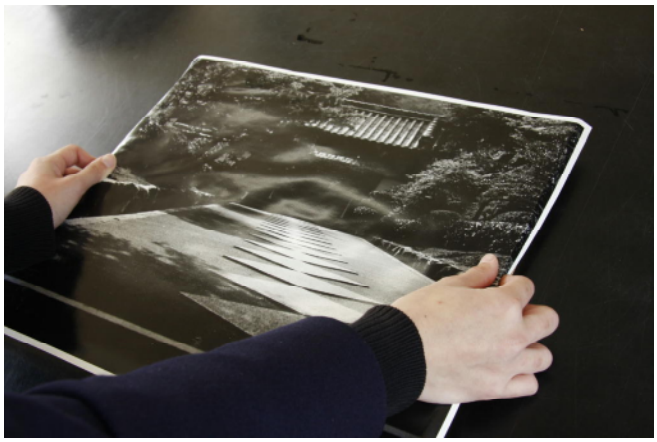
①　印画紙は必ずバライタ紙を用いる。この方法では印画紙に吸水させる必要があるが、バライタ紙は樹脂でコーティングされていないため吸水が可能となる。

②　ここでは市販のパネル（商品名：木製パネルサクラ）を利用する。写真はパネルを裏から見たもので、角材でできた枠に板材が張ってある。

③　ほかにパネルテープ（裏に切手用の糊が塗布された紙テープ）、スポンジ、ホチキス及びはさみが必要。

④　印画紙を吸水させ膨張させるために、印画紙の裏から水を含ませたスポンジでなぞる。

⑤　印画紙の上に木製パネルを重ねる。

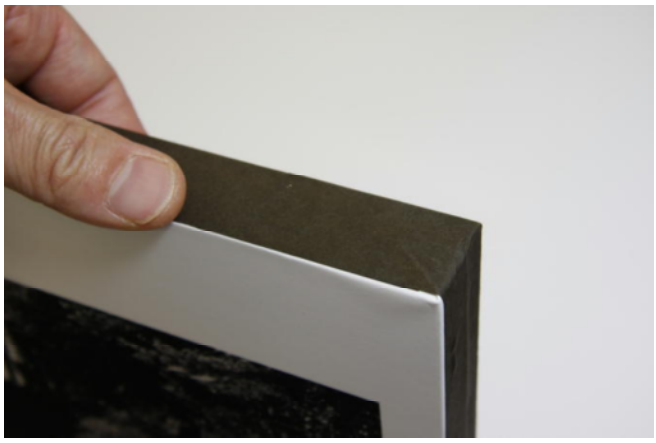


⑥　表に返し、木製パネルの角に沿って印画紙を折り曲げる。その際、印画紙を外側に引っ張りながら、できるだけしわを伸ばすように行う。

⑦　印画紙の縁をホチキスで固定する。

⑧　印画紙の角はこのように折り曲げると、きれいに処理できる。

⑨　パネルテープをパネルの縁に貼る。その際、パネルテープは水を含ませたスポンジを使ってあらかじめ濡らし、糊が効く状態にしておく。



⑩　パネルテープの縁は、パネル表側の角に沿うように貼る。

⑪　パネルテープの余った縁は、パネルの裏に折り曲げて処理する。糊が乾いて効きが悪くなっている場合は、適宜水を与える。

⑫　印画紙が乾燥すれば緊張によって表面が平滑になり、パネルの完成となる。

２．マットパネル貼りについて

写真用印画紙の主流が水洗や乾燥が容易な RC（レジンコーティッド）ペーパーに移行しているようですが、RC ペーパーでは先の水張りは行えません。フジカラーから販売されている商品名「マットパネル」を利用すれば、RC ペーパーのパネル貼りが行えます。また、最近急速に普及しているインクジェット用写真用紙の場合も、この方法でパネルを作ることになります。ただし、マットパネルの単価が千円を超えるほど、高価なのが欠点です。

① 印画紙は平滑性の得やすい RC（レジンコーティッド）ペーパーが向いている。富士写真フィルムの RC タイプ印画紙には、WP（ウォータープルーフ）と表記されている。また、プリンターのインクジェット写真用紙も用いることができる。

② 市販の商品名「マットパネル」が便利。木製パネルの表面に粘着シートが付いていて、保護シートを剥がして写真を貼る。最後に、写真の縁に付属のマットを貼り付けて完成となる。

参考　市販のマットパネルは便利な反面高価である。また、付属のマットによって写真の縦横比が制限されてしまう。ここで紹介するのは、ケント紙を水張りした木製パネルに、両面テープで RC ペーパーを貼ったものである。